

文部科学省：課題解決型高度医療人材養成プログラム

「臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム」の公開について

CCRP プログラム担当者

北海道大学大学院医学研究院 七戸俊明

千葉大学大学院医学研究院 鈴木崇根

厚生労働省、文部科学省による支援、臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン（日本外科学会・日本解剖学会）の公表により、全国で新しい献体利用が拡がり始めました。新しい献体利用とは、主に Cadaver Surgical Training (CST) や医療機器開発などを指します。CSTに参加をするのは基本的に医師に限られておりますが、医療機器開発は営利企業との共同研究という形となり、非医師である工学系研究者や企業の開発者が多数解剖室に出入りすることになります。今回、非医師である研究者や開発者向けの系統だった講義を作成・公開することになりました。解剖実習室に自由に企業を出入りさせて良いのか不安に思われている解剖学教室の皆様におかれましては、ぜひご一読をお願い致します。

解剖実習を経験した医師であっても死体解剖保存法、献体法の詳細まで知る者は少なく、CSTを導入するにあたり少なからず不安を感じたのではないのでしょうか。ましてや解剖を見たこともない研究者、開発者を現状のまま解剖室に入れて良いのか逡巡されたことと思います。そこで、北海道大学・千葉大学・京都大学は文部科学省：課題解決型高度医療人材養成プログラム（R1年度～）の採択を機に、「臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム」を完成させました。その内容は、大学院の授業（e-learningと実習）として新しい献体利用のすべてを系統立てて講義（末尾参照）するものです。特筆すべき事項として、このプログラムは「履修証明プログラム」として、社会人向けに公開されます。献体を使用したCST実施や医療機器開発について法律・規程等を熟知した工学系研究者や企業の開発担当者等の人材を生み出すことを目的としています。これにより遺体の適切な使用が可能となり、医工連携・産学連携が効率良く進み、日本発の医療機器開発がスムーズに可能となります。当然のことながら、興味本位での履修は不可能で、真に献体を利用する予定のある職種・学部の人材に限定されます。

もし皆さんの大学で献体を用いた共同研究を持ちかけられた場合、我が国唯一のこのプログラムを受講してもらうことを検討して頂ければと思います。また、教員や技術職員の方の受講も歓迎いたします。お問い合わせは北海道大学献体による臨床医学研究プログラム協議会（CCRP）事務局（cast_jimu@med.hokudai.ac.jp）までお願い致します。

履修証明プログラムの概要

講義 (e-learning)

- ・ 臨床医学・外科解剖セミナー (8コマ)
- ・ 臨床解剖概論 (8コマ)
- ・ 医療機器開発概論 (8コマ)
- ・ 外科教育概論 (8コマ)

実習 (プログラム実施大学での CST や研究の見学)

- ・ CST 実習 (臨床解剖実習) (8コマ)

受講料 : 74,000 円 (5 単位)

北海道大学 CAST 関連事業「臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム」パンフレット

https://cast.med.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2020/09/CCRP_Pamphlet.pdf

